

看護大学 だより

#14

新しい学び・人・キャンパス
福岡看護大学の魅力を
ご紹介します!



Well-being について、世界保健機関(WHO)憲章には、「健康とは、病気でないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態(well-being)にあることをいう」と有ります。本学は教育の大きな柱として、看護の対象となる方々を、病気を「診る」医療の視点だけではなく、どのような状態であつても人生を生きる一人の個人として「見る」視点をもち、患者さんの個別性に応じた最適な生活「well-being」への支援ができる看護専門職の育成を掲げています。

Well-beingに係る学修内容については、「1年次には講義科目『well-being』で概念について学修し、2年次には演習科目『well-being care』の中で、看護専門職として対象者をどのように捉えていくのか、その思考過程を学びます。3年次には半年間にわたる臨地実習の中でwell-beingの基本理念に基づいた看護を実践し、総まとめの最終学年では『well-being care 統合』の演習の中で、これまでの臨地実習、そして統合看護学実習で学び得た看護の知識・技術・態度について、振り返り、分析し、課題を明らかにしていきます。このように重層的に、well-beingの概念を貫くカリキュラムが組まれています。」
(飯野英親学部長談)。

例えば、がんの患者の延命のために苦しい抗がん剤を勧めますが、患者の希望によっては必ずしも苦痛を強いる治療を行うことが最良とは限らないというように、患者がどのような人生を歩みたいかに目を向けることはwell-beingにつながる医療と言えるでしょう。看護の立場では、対象者にとって何が最適であるのか一緒に考えていく、それを成し得るには信頼関係と心につながるコミュニケーションが大事であり、それがwell-beingにつながってゆきます。

(大久保つや子・寒水章納)



短大 VOICES #14

夢を叶える場所
「福岡医療短期大学」
多くの出会い・絆を育んでいる
短大の情報をお届け!



秋竹 純

福岡医療短期大学
保健福祉学科 講師

今年、新型コロナウイルスの影響を受け、短大も前期授業は6月からのスタートとなりました。保健福祉学科は、最後の年度であり、新年度が4月スタートにならなかったのが残念でなりません。しかし、学生の皆さんが安心して対面授業を受けることができるよう、教室の環境整備や感染拡大防止に向けた意識改革など、目まぐるしく始まる新しい取組みに、私達も全力を注いで対応しています。

私ことですが、今年、福岡医療短期大学に勤務し始めて、二十年目の年を迎えました。これまでに、温かく見守ってくださった諸先生方、支えていただいた職員の方、皆さまに心から感謝申し上げます。学科は閉鎖となつてしまいましたが、最後まで医療・福祉・介護人材の養成と研究活動に邁進したい所存ですので、引き続きご指導とご鞭撻を宜しくお願い致します。



保健福祉学科学生との課外活動